

令和7年度 第24回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年11月10日(月) 19:00～

場 所:郷コミュニティセンター

参加者:9名



- ◆ 季節ごとに工夫して事業を行っており、昨年からは防災フェスティバルをやっています
- ◆ 事業への参加者が減っていて、特に若い世代や子どもの参加が課題です

(参加者)

昨年、郷コミュニティセンターで実施した行事について簡単に説明します。まず、郷スポーツ協会の行事ですが、3月にソフトバレーとドッジビー大会、4月にソフトボールとペタンク大会を実施しました。5月には社会体育大会、7月には軽登山とニュースポーツも行いました。

郷まちづくり協議会としては、大きな行事として5月の社会体育大会があり、7月には防災フェスティバルを昨年初めて実施しました。センターに消防車を入れ、地震体験なども行いました。8月には盆踊りを開催しました。

また、年間を通じて横江荘園に関係するイベントとして、田植えから稲刈りまで、北陽小学校の協力を得て実施しました。10月には趣味展を開催し、これで概ね年間のスケジュールとなっています。

(市長)

地区によっては、社会体育大会が参加者不足で開催できないという話も聞いたことがあります。こちらでは、社会体育大会への参加はいかがでしょうか。

(参加者)

体育協会の立場からも、町内会の立場から見ても、参加するのは役職の人が多い印象です。完全に自由参加で来られる方は、比較的少ないと思います。

ただ、役職に就いたことで今年は社会体育大会に出るという流れになり、町内として一定の人数は集まります。専福寺町では、子どもと保護者の参加は比較的多いと感じていますが、子どもがいない世帯など、自由参加で来られる方は非常に少ないのではないかと思います。役職だから来ている方が多いのではないかと、という印象です。

(参加者)

確かに、数年前までは、お弁当をその場で食べて、その後に片付けをして終わる、という流れでした。ところがここ数年は暑さの問題もあり、午前中で終わっています。やはり自由参加で楽しみに来られる方は減ってきていると感じます。

(市長)

そうですね。今は5月でも相当暑いです。小学校や中学校でも、運動会の時期をずらしたり、コロナの影響もあって半日で終わったりということもありました。

例えば社会体育大会では中学生が係員をする、と決めている地区もあります。学校と取り決めをして、その日は部活動をせず、全員が地区の社会体育大会に行き係をする、という形です。こちらでは中学生はあまり参加していないですか。

(参加者)

中学生はほとんどいないと思います。小学生はそれなりに来てくれますが、子どもたちもクラブ活動が増えているので、日曜日は大会などが入ることも多いです。

そのため、低学年の頃は比較的来てくれるのですが、中学年以降になると減ってきます。スポーツ少年団などの関係もあり、全体として少なめです。

(市長)

中学生と地域とのつながりが薄いという話もありますが、以前から、あまりつながりはないのでしょうか。

(参加者)

そうです。地域行事は土日開催が多いので、中学生は部活動が優先になり、どうしてもそちらに行かなければならない状況があります。その結果、地域側としても入ってきてもらう機会が少なく、関わりが生まれにくいのです。

小学生のときは参加していたとしても、中学生になると忙しくなって出られません。高校生になるとさらに難しくなります。大学に行って、卒業して戻ってきたとしても、地域にうまく入っていけるかという、なかなか入りにくいと思います。大学進学などで生活圏が変わると、地域とのつながりが非常に希薄になってしまいます。

こうしたことが、地域との距離を広げている要因の一つではないかと思います。さらに、昔は地域の中でいろいろな活動をしながらかつながりをつくって成長していきましたが、今は多様な娯楽もあり、地域行事に関心が向きにくい面もあります。「地域の行事に行って何か面白いことがあるのか」と思われやすくなっているのかもしれない。本当はそうではないと思いますが、参加につながりにくい背景としてあると思います。

(市長)

先ほど出た担い手不足の話ともつながりますが、状況としてはなかなか難しくなっているのかもしれない。

◆ 役員の任期後も地域活動に継続的に関われる仕組みが必要です

(参加者)

外から来た人は町内会とのつながりが薄く、自分は関係のない人間だと感じている面もあるようです。来年は娘の夫に班長を担当してもらおう予定で、フォローはしますが、役員を一度やったからといって、すぐに溶け込めるものではないと思います。

だからこそ、役員を務めたことをきっかけにして、翌年に役員を終えた後も、何らかの形で町内会活動に関わり続けられると良いのではないかと感じています。役員をやって終わりではなく、引き続き町内会活動に参加できる形を作っていければいいと思っています。いきなりは難しいと思うので、まずは役員をきっかけにする、という考えです。

(市長)

コミュニティ組織として、そうした点を工夫したり取り組んだりしていることはありますか。担い手がない、若い人が来ない、といった状況でしょうか。何か工夫していることがあれば教えてください。

(参加者)

どうしても役員になるのは年齢層が高い方に偏ってきます。若い人は仕事を優先せざるを得ませんし、休みが土日ではない人も多いようです。そういった状況を考えると、自分から「やります」と手を挙げる人は、なかなかいないのが現状です。

(参加者)

総務会は、複数年にわたって、都合が合えば何年も続けて参加しているメンバーが多い組織です。一方で、町内会長や他団体の役など、年度が変わると次の方に交代する役職の方も多くいます。先ほど言われたように、その役をきっかけに地域に関わってくれればと思いますが、現実には役が終わると関わりが薄くなっていくことも多いです。そこが一つの課題だと感じています。

継続して関わっている立場としては、単年度で終わらせない仕組みづくりが必要ではないかと最近考えるようになりました。ただ、何かやっていますかと言われると、正直なところ、これまでは十分にできていませんでした。改めて考えると、役が単年度で終わっていくことが、組織がなかなか活性化しにくい要因の一つになっているのだと思います。他の地区でも同じ課題があるかもしれません。

◆ なぜまちづくりや地域行事、防災の備えが必要なのかという具体的なメッセージを市長から示してほしいです

(市長)

防災訓練フェスティバルはどんな工夫をされているのですか。

(参加者)

防災組織の会長が市や消防などいろいろな調整してくれました。地区全体としてもそれに沿って進めています。

まちづくりとは、突き詰めれば人と人とのつながりのことだと捉えています。最近は多様性の時代と言われていますし、人とのつながりがなくても生活できる時代になっています。昔は近所付き合いがないと暮らしそのものが難しい場面も多かったと思いますが、今は便利になり、隣近所が何をしても気にならない、困らないという状況があります。

その中で、なぜまちづくりが必要なのかを考えると、やはり防災など、いざというときにみんなで協力して乗り越えるためなのだと思います。郷地区でも防災の取り組みを始めて何年か経ちましたが、課題は共通で、参加してくれる人が固定化していることです。

その背景には、「なぜ必要なのか」という点が住民一人一人に十分伝わっていないことがあるのではないかと思います。白山市、特に松任地区は比較的恵まれた地域で、災害といっても大雨や地震が中心だろう、津波が来るわけでもない、という感覚があるのだと思います。地震もここ何年も大きなものを経験していないので、なおさらです。

そうなる、防災といっても何をすればいいのか、まちづくりといっても何をしていけばいいのか、具体的な課題として伝わりにくくなります。その結果、行事も「別に参加しなくてもいいのでは」となってしまうのではないかと感じています。

ですから、私たちの課題としては、もう少し具体化して、「何のために社会体育大会をするのか」「何のために文化展をするのか」といった目的を、住民に伝わる形で工夫していく必要があると思います。

市長からも、そのあたりをもう少し具体的なメッセージとして示していただけると、私たちも動きやすいのではないかと考えています。

(市長)

東北の大震災のとき、家がつぶれて下敷きになるなどの被害がありましたが、「この時間帯なら、この家のおばあちゃんはこの辺にいるはずだ」と見当がつくので、そこをピンポイントで探して助け出すことができた、という話を聞きました。また、地震で土砂災害が起きると、その場で避難所をつくり、避難所運営をせざるを得なくなります。人は必要性や必然性がないと、自主的に動くのはなかなか難しいものですが、どちらも日頃のコミュニティの力が重要だと思っています。

言葉でいろいろ言っても、やはり実体験がないと伝わりにくい面があります。その意味では、起震車などを持ってきて震度 7 を体験すると、「とてもじゃないけど逃げられない」と実感できます。疑似的な体験かもしれませんが、訓練を重ねて経験を積み重ねることが一番だと思います。

能登でも、日頃から訓練を重ねていたため、津波のときに全員が高台へ避難し、身体的な被害を受けた方がいなかった、という集落の例もあります。東北でも「てんでんこ」、つまり「それぞれが逃げる」という考え方など、経験を踏まえて取り組んできたことがあります。

旧松任市はこれまで大きな災害をあまり経験していません。能登半島地震でも、白山市全体では震度 5 弱と出ていますが、旧松任あたりは 4 程度で、家が崩れるようなことはほぼありませんでした。大きな川も周辺にはありませんし、用水は張り巡らされていますが、七ヶ用水は手取川の取水口を閉じますので、課題としては内水氾濫です。昨年 8 月、9 月の豪雨のときには、アンダーパスが浸水し、車が 2 台水に浸かり、床下浸水がいくつかありました。

市でも、職員が緊急に集まる訓練として、避難所の鍵を開ける訓練なども行いました。いろいろ取り組んでいますが、結局は繰り返していかないといけないのだと思います。

私もさまざまな地区を回り、訓練に呼んでいただいたところにはできるだけ行って、その場でお話もしています。

先日は山島地区に伺いました。山島は 11 月の第 2 日曜日を「防災の日」と決めていて、その日はみんなで訓練するという形になっており、多くの方が参加していました。地区としてそうした仕組みを作るのも一つの方法かもしれません。

ただ、参加者の固定化や担い手不足という課題はあります。一方で、郷地区は人口が増えています。郷地区全体で増えている中で、新しい方も入ってきています。お祭りとしては「じょんから」や「横江の虫送り」がありますが、そのあたりはどうですか。若い人が出てきたり、つながりができたりしていませんか。

◆ じょんがらや横江の虫送りなどの伝統行事の継承と企業連携による防災活動の取り組みが活発です

(市長)

郷地区では人口が増えて、新しい方も入ってきています。お祭りとしては「じょんがら」や「横江の虫送り」がありますが、そのあたりはどうですか。若い人の参加やつながりに関してはどうですか。

(参加者)

じょんがらについては、地区の中で「8月の第1日曜日に盆踊りをする」と内々に決めており、その盆踊りではじょんがらを踊っています。ここは比較的盛況で、私自身「なぜこれだけ多くの方が来てくれるのだろう」と考えることもあります。保育園や幼稚園の子どもたちから高齢の方まで、幅広い年代が来てくださっています。

横江の虫送りは市の無形文化財に指定されており、伝統文化・伝統行事として続いています。これは地区全体の行事というより、横江町の行事としての位置付けだと私は捉えています。ただ、市の無形文化財でもありますので、多くの方に来ていただいています。最近では、運営を担っている方々がいろいろ発案されて、規模は小さいですが花火を上げたり、よさこいの団体を招いて演舞をしてもらったりしています。さらに、イオンモール白山さんに協賛いただき、敷地内で露店のような出店をしていただくなど、来場者が増えるような取り組みも行っています。

(市長)

私も横江の虫送りに参加して、最後の花火なども拝見しました。イオンモール白山さんとは、郷地区としてのつながりもありますか。

(参加者)

今年の防災フェスティバルは、イオンさんとの共催で実施しました。昨年はこのセンターで行ったのですが、今年の会場はイオンモール白山で、うちだけでなく、他にも2、3社ほど企業さんに関わっていただきました。

来場者向けにはクイズラリーを行い、さまざまな体験も用意しました。例えばジャッキを使って倒れたバイクを持ち上げ、救助する訓練などです。10時から16時まで実施しました。

防災委員会では、会長さんが会報を毎月発行し、さまざまな情報を発信されています。防災委員会は素晴らしい活動をされていると感じています。

(参加者)

防災委員会の会長さんは東日本大震災のときに東京にいらっやあって、実際に大きな地震を経験されています。その経験を、今この地域でどう広げていくかという視点で取り組んでいらっやいます。やはり経験している人にはいろいろな発想があります。地域に足りない部分

を補う形で、大きな旗を振って引っ張ってくださっているのだと思います。最初に動き出すためには、そうした「旗振り役」が必要なのではないかと感じています。

(市長)

実際に能登半島地震を経験された方、避難所運営を経験した方の講演会などを開催している地区もあります。実際に経験した方に来ていただくと、伝わるものがあります。こちらでは会長さんが経験者としてご自身で取り組んでおられるのだと思います。先ほど話にあったように、日頃経験していないと緊迫感が出にくい面もありますが、そういう意味でもいろいろ工夫して活動されているのだと思います。

(参加者)

これから、防災フェスティバルの他にも、防災に関する講演会のようなものも、実施できたらいいと思っています。

(市長)

能登半島地震のときは、美川の湊地区の踏切あたりでサンダーバードが止まり、乗客の方が列車内で一晩避難生活をされました。そのとき湊地区は防災訓練をよく行っていた地域で、列車の方々も朝まで何とか避難して対応できたとして、JR から感謝状を受けています。

実は、その場にいた方の中には関西から来ていた方もいて、向こうで震災を経験していたり、湊地区では愛媛の大学の先生や学生さんも来て訓練に参加したことがあり、それも現地での震災経験が背景にあるのだと思います。

そういう意味で、各地でいろいろ工夫が進んでいますし、こちらも経験を踏まえて取り組まれているのだと思います。実際、白山市では 28 地区すべてで、防災をまちづくりの中心の一つに据えてほしいという考えのもと、前の山田市長の時代から取り組みが始まりました。現在は、どの地区でも防災のさまざまな取り組みが増えています。

◆ 地区内に校区がまたがり、子どもの交流がしづらい状況です

(参加者)

郷地区の子ども会としては、小学校が横江町だけ北陽小で、他の 3 町は東明小というように分かれている事情があります。そのため、郷地区みんなで凧揚げ大会や社会体育大会などに参加しても、顔見知りではない子がいる状態になります。

郷地区全体で集まる機会や、郷コミュニティセンターの行事もありますが、学校が違うこともあって、なかなかコミュニケーションを取ったり、一緒に遊んだりするのは難しいと感じています。

(市長)

子ども会はどうしても小学校が中心になるので、小学校が違くと難しいかもしれませんね。中学校は分かれていますか。

(参加者)

中学校は光野中で一緒です。小学校は別で、中学校で一緒になる形です。

遊ぶ場についても、公民館やコミュニティセンターに放課後みんなで集まって遊ぶとなると距離があり、全員が集まるということはあまりありません。

子ども会の行事は町内会ごとに行っていますが、郷地区全体としては、郷コミュニティセンターの行事に参加する、という形になっています。

(参加者)

毎年、田中町の神社の祭りで、10月の最初の日曜日に子どもみこしを出しています。今年は雨で中止になりましたが、例年は町内を一周します。ただ、一周回ると子どもたちには負担が大きく、3時間もかかるので嫌だという声も出ます。

今年は低学年しか集まらず人数が少なかったので、どうしたらいいか考え、二部制にして東側と西側に分け、前半・後半で回るスケジュールにしてはどうかと思いました。そうして予定を組むと、最初は5~6人しかいなかったのが、最終的に25人ほど集まって参加してくれました。

残念ながら雨で実施できませんでしたが、みこしは田中町の集会所まで運び、晴れ間を見て集会所の周辺だけでも担ごうということにしました。そして「来年は晴れたらやろうね」と話しました。低学年の子どもたちだけでしたが、とても喜んでいました。

町内会の行事に参加し、そこで少し大きくなってから地区の行事にも参加していく、そういう流れになっていけばいいというのが私の理想です。そのためにも、毎年同じことを繰り返すだけでなく、人数が集まらなければやり方を変えるなど、試行錯誤が必要だと思っています。今まで通りにやるのではなく、みんなで考えていかないといけない、という思いがあります。

(市長)

変えるというのは、かなりエネルギーが要ります。どうしても「例年通り」はやりやすいですからね。ただ、防災はそうやっていろいろ変化させながら取り組んでいるので、一方で、伝統行事として積み重ねてきたものもあるのだと思います。

◆ 人口が増加する中で、地域活動への参加と定着が課題です

(市長)

田中町は人口がぐっと増えている地区だと思いますが、新しい方の参加は結構ありますか。

(参加者)

先ほどからも出ていますとおり、役に就いた方は率先して参加してくれますが、役を離れると参加しなくなることがあります。ちょっとしたことで「楽しかった」という気持ちが広まっていけば、参加率も上がるのではないかと考えているのですが、現実には役が終わると、あまり参加しない方が多いです。

(市長)

担い手不足の話もありましたが、新しい方が増えているのであれば、その方々にどうコミュニティに入ってもらうかは難しい課題です。

いろいろな地区を回っていると、行事やお祭りが一つの鍵になっていると感じます。こちらでは、じょんがらなど行事がしっかりありますし、横江の虫送りもあります。伝統的な相撲を小学生が行うなど、子どもが参加する行事も多いです。地区の中でもいろいろ違いがあると思います。

ぜひ、そのあたりも含めて、地道に取り組んでいただけたら嬉しく思います。

(参加者)

人口が増えているという点についてですが、各町の役員や、まちづくり協議会は、そもそも4町の町会長で構成されていますので、現在はある程度の年代の方が担っています。

ただ、新しい住宅が増えてきて、町会によっては今後もっと若い方が出てくると思います。そうした方が協議会や郷地区の行事に定着してくれるかどうかは課題です。1年終わったらずっと後退してしまう、という形にならないように、どうすればいいのかという部分が一番大事だと思っています。

総務会(旧運営審議会)でも先日会議を開き、さまざまな行事の課題を話し合いました。例えば文化展は今年は内容としては控えめでした。それでも、他のセンターではもっと工夫して来て場者も多い、という話も聞きます。

そうした点も踏まえ、各行事について「どこに問題があるのか」「どうすればもっと人が集まるのか」を考えています。盆踊りについても、うちでは20年以上前から凧作りを続けていますので、そうした取り組みも含めて、行事をどう工夫し、どう変えていけば、持続性のある運営ができるかを検討していきます。先日の会議では課題を整理したところなので、今後さらに詰めて、来年度以降の行事に生かしていきたいと考えています。

(市長)

今日は、さまざまな地区の課題や、郷地区ならではの取り組みについてお話を伺うことができました。まちづくりについても、いろいろお話できて良かったと思います。

市としても、今後とも各地区コミュニティ組織と一緒に、協働のまちづくりを進めていきたいと考えています。協働とは、地区の方々の顔が見えて、日頃から関わり合っていることだと思います。能登での避難所運営でも、コミュニティの中で培ってきた人との関係性が重要だったのだと思います。

そうした点も踏まえて、市としては防災を含め、協働のまちづくりにこれからも取り組んでいきますので、ご理解をお願いします。本日はありがとうございました。